俱多楽火山

〇大正地獄の熱泥水噴騰活動

5月末から6月中旬まで熱水流出はあったもの噴騰に至らなかったが、6月14日の01時過ぎに昨年の7月から9月上旬の活動に匹敵する規模の大きな熱泥水の噴騰が起こった。この後、規模の大きな噴騰活動は翌15日の17時過ぎに、さらに12日間の休止期を経て6月27日にも観測されたが、それらの規模は時間とともに小さくなる傾向が認められた。7月にはいると規模は一段と小さくなり、7月から現在まで約4日間の休止期を夾んで同程度の噴騰活動が繰り返されている。

2007年5月の最初の噴騰活動に先行して上昇した日和山噴気孔の温度は依然として135℃前後と高温な状態にある。一連の活動に前駆して日和山噴気孔の温度が上昇したことを考慮すると、高温状態が続く間は噴騰活動が継続するのかも知れない。

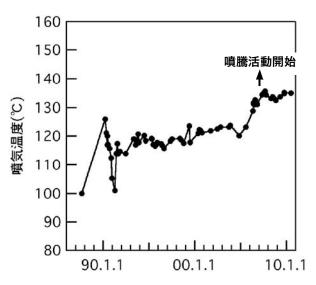


図1. 日和山噴気孔温度の経年変化

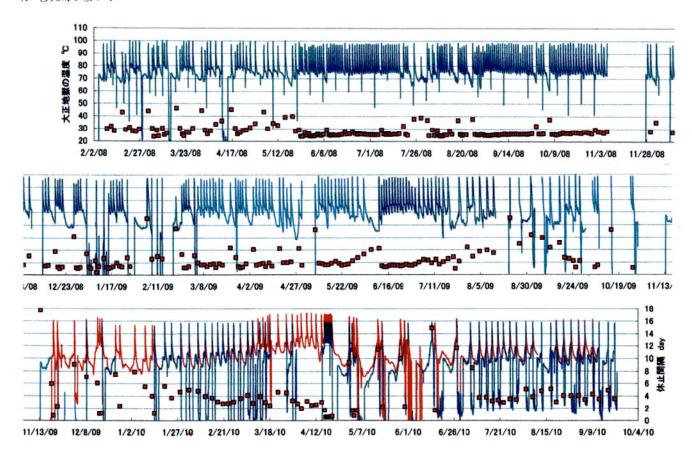


図2. 大正地獄内の熱水温度(赤および青実線)と休止期間(赤四角)の時間変化. 赤実線は大正地獄底, 青実線は底上方(満水面下3~5m)の温度(安孫子原図).